



連載

夢を叶える
大月仕事人



今月の interviewer

大月短期大学 左から
さわださやか じょうないさき
澤田爽花さん、城内彩希さん、
やまうらかほ やまぐち
山浦佳歩さん、山口りささん

たたず
佇まいの美しいものを残したい

“夢を叶える大月仕事人”の連載第12回目は、美術家として世界的に活躍されている、石黒一夫さんに、大月短期大学生がインタビューしました。

【一生懸命 めいっぱい 命を懸けてやること】

私は現在、70歳を超えていますが、20歳のあなたたちと何も変わっていません。若いころからやってきた現代美術の仕事に死ぬ気で一生懸命続けます。人から見ると「好きな仕事をやっていていいね」と言われますが、そんなものでなく必

―若者へのメッセージをお願いします。

幼少期の楽しい体験は何年経っても心に残ると思います。だから、僕は浄瑠璃人形という形で、子供たちに教え、実際に演技をしたり、紙粘土で人形を作ったりする体験を提供しました。このようなあらゆる体験が将来の可能性に繋がると思っています。

の中で、僕はインストラクターとして、薪割りを体験してもらいました。この自然という財産を活かして、体験出来る場所を提供していくことが、子供たちには必要なことだと思います。

元々私は美術家、主に空間の仕事をして46年間ずっとしています。素材は色々なものを使いますが、主に木が中心です。今は人形浄瑠璃の頭を作る人形師という仕事を生業にしています。大学は彫刻科を出て私が好きな先生のもとで指導を受けていました。大学の頃からいろいろなところに作品を出品していましたが、資格や免許は持っていませんが、私は実績がすべてで

―お仕事の内容を教えてください。



いし黒る かずお
石黒 一夫さん

～プロフィール～
美術家（人形師） 七保町駒宮在住
多くの個展を開催。他にも、第11回 ジャパン・アート・フェスティバル展 入選、ザ・ジュウリー・デザイン・アワード 最優秀ゴールドデザイン賞（ディスプレイ部門）受賞。

やってきました。テーマパークのパーツ作りや、ウイスキーのポスター作品を作るなど、公共的な仕事もしてきましたよ。木に関する事はやらなかったことがないくらい、多くの仕事をしてきました。アトリエも床の基礎から全部作り直しました。

―「石黒さんの夢（将来の目標）をお聞かせください。」

1つでもいい仕事を残していきたいという思いで、私にしかできない仕事をずっと探してい

死です。若いころにもった情熱は今も続いています。常にアウトサイダーで、ひとりきりですが、頑張って残してきたものがあちこちに散らばっています。私は最終的には、一生懸命一杯命をかけてやるのが大切だと思います。私はやっていることがアウトローだから浮いてしまい、叩く人が必ずいっぱい出てきます。しかし、それにめ

自分の意思を強く持つ

石黒さんは師匠がいない中で自分なりのノートを作り、研究し、見たことのない新しいことをやり続け、自分にしかできないものを追求してきました。石黒さんが若いころに持った情熱を持ち続け、さらにいい作品を作り出そうとする向上心を私たちも見習いたいと思います。

石黒さんが仰っていたように、目標に対して一生懸命に取り組むことや自分の意思を強く持つことを進路に活かしていきたいです。



げずにやると、必ず成果が残っていきます。そういうものを世界が見ているから、今みたいにインターネットで発表すると世界中から反応が来ます。自分が「こうだ！」と思ったら、周りに叩かれても何をされても、自分のそうだと思うことをやれる力を持つことが大事です。

―大月市の魅力と将来の可能性について教えてください。

大月市は森林が魅力だと思います。大月市は森林が90%もあり、自然がたくさんあります。この雄大な自然を活かして、2011年の福島の原発事故で、悲惨な目にあった福島の子供たちを、大月市の有志の方々がキャンプに招待しました。そ

ます。以前は現代美術というジャンルで、主に銀座を中心に個展をやっていました。これからは現代美術の作品の個展をやるのが夢です。
―石黒さんにとってのいい仕事とは？
唯一無二でたたずまいの美しいものです。それを常に心がけています。1本の筋が通っていて、その人自身が作品のようになっているものを目指しています。